

例 言

1. 本書は令和2年度（2020年度）から令和6年度（2024年度）にかけて実施してきた以下の京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）の成果報告書である。

「丹後半島における文化遺産の地域資源化に関する総合的研究」（令和2年度、研究代表：諫早直人）

「過疎化が進む地域における文化遺産の地域資源化に向けての実践的研究—京丹後市久美浜町須田区からの発信—」（令和4年度、研究代表：諫早直人）

「地域・学校・博物館との連携にもとづく文化遺産の次世代に向けた活用研究」（令和5年度、研究代表：菱田哲郎）

「文化遺産の記録化・記憶化による地域未来の創出に関する実践的研究」（令和6年度、研究代表：諫早直人）

2. 本書には日本学術振興会科学研究費基盤研究（B）「古墳・副葬品の多角的検討にもとづく日本列島初期仏教受容史の再構築」（課題番号 22H00719・23K21991、研究代表：諫早直人）の成果を一部含む。

3. 本書の編集は諫早直人がおこない、山内愛弓、横臼彩江（京都府立大学大学院文学研究科博士前期課程）がこれを補佐した。

編集後記

2020年に始まる「湯舟坂プロジェクト」は早くも6年目に突入している。教員生活のほとんどを久美浜に捧げてきたといえば大げさだが、府大に着任したのが2018年なので、私だけでなくたくさんの教え子がそれまで縁もゆかりもなかった久美浜に足繁く通ったことは確かである。3回分の成果報告会資料集をまとめて一書にしようと、気軽な気持ちで本書の制作を思い至ったが、皆さんお忙しく、思いのほか難産だった。スケジュールに追われる中、献身的に編集作業を手伝ってくれた二人の大学院生には感謝してもしきれない。

なお、湯舟坂プロジェクト立ち上げ時から一緒に仕事をしてきた、菱田哲郎先生が今年度でご退職される。まだ隣の研究室には山積みの荷物があるので実感がわからないが、1994年に開設した府大考古にとって最大の岐路であり、寂しい限りである。様々な仕事を通じて文化遺産の地域資源化の重要性を教えていただいた学恩に感謝するとともに、兵庫県と接する久美浜にこれからも足繁くお越しいただければと思う。(い)

表紙写真

- 上左 双龍環頭大刀調査風景（諫早直人撮影）
上中 第2回 ACTR 成果報告会風景（栗山雅夫撮影）
上右 「つなプロ」風景（諫早直人撮影）
下 湯舟坂2号墳出土双龍環頭大刀（栗山雅夫撮影）
裏表紙写真 湯舟坂2号墳全景（南西から。栗山雅夫撮影）



京都府立大学文化遺産叢書 第33集

地域資源としての湯舟坂2号墳

- 編集 諫早 直人（京都府立大学文学部准教授）
発行 京都府立大学文学部歴史学科
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5
<https://kpu-his.jp/>
発行日 2025年3月6日
印刷 北斗プリント
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2